助成･寄付寄贈報告

※　認定特定非営利活動法人「イーパーツ」様より　リユースノート PC3 台

皆様に厚く御礼申し上げます。

研修会･講演会のご案内

◆ **定期研修会「Be サポ事例研究会」**

研修内容は、原則、奇数月に成人事例のアセスメントを中心としたもの、偶数月に子どもの事例検討を行っています。参加者の皆様とさまざまな意見を出し合いながら、その人らしさを理解し、今後の支援の在り方や方向性を一緒に考えていきたいと思います。

日時：原則、毎月第 3 水曜日 18：30～21：00　　場所：プラサヴェルデ沼津（※変更の際にはご連絡いたします）
参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円／1 回
参加資格：心理士、スクールカウンセラー、支援員、教員など、守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。
初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。
今後の予定：10/19, 11/16, 12/21,1/18,2/15,3/15
（コロナの影響で中止・変更の可能性がありますのでご了承ください）
※この研修会は、臨床心理士資格認定協会の資格更新ポイント（定例型）の申請を予定しています。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、EMDR、各種心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
：伊豆市・伊豆の国市・清水町・長泉町
教育委員会（就学支援・特別支援教育・巡回相談）
：函南町・清水町・伊豆市・長泉町
市民メンタルヘルス相談　：　伊東市・富士市
県および市町主催ゲートキーパー養成事業
高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー
看護学校スクールカウンセリング
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

不登校・ひきこもり支援事業
沼津市　：　東部圏域　居場所「なごみ」（県委託事業）
伊豆市　：　伊豆圏域　居場所「とっこ」（県委託事業）

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンターみつばち
----------沼津市----------
保育所等訪問支援　／　児童発達支援「あんず」
放課後等デイサービス「かりん」
----------伊豆市----------
みつばち伊豆　放課後等デイサービス「みかん」

相談支援事業
指定計画相談支援・指定障害児相談支援「び～さぽーと」

Be サポート会員募集中

NPO 法人とは、利益を目的とせず社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 48 名、賛助会員 4 名（2022.9.1 時点）で活動しております。

私たちの活動を応援してくださる会員さんを募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会での参加費が優待されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員のご登録をいただける方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人 臨床心理オフィス Be サポート

クローバー通信

2022 年 9 月20日発行 Vol.30

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax　055-925-1701
Mail　be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP　http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

- 新型コロナウイルス感染症対策として、Be サポートではすべての事業において「手指および室内の消毒」「常時換気」「マスク着用」「検温」等を実施しております -

こころに寄り添う心理の仕事

Be サポート理事　加藤 好子

スクールカウンセラーをしていると、悩みや困りごとの相談ではなく、「カウンセラーの仕事に興味があるので、どうしたらなれるかお話しを聞きたい」という生徒の相談が入ることが時折あります。その中には、「自分が悩みを抱えていた時に、スクールカウンセラーの先生に話を聞いてもらって楽になったから、自分もそういう仕事に就きたいと思った」と答える子が多くいます。悩みを親身に聴いてもらったことで、それを乗り越える力を得て、さらにはその経験によりまた別の人の力になりたいと思えたその子は、きっと、人の痛みに寄り添うことの大切さを実感したのだと思います。「それはいい経験をしたね、すごいね」と感心するとともに、自分はそのように力を与えるカウンセラーでいられているかどうか、改めて自分自身の関わりを振り返る機会にもなっています。

先日、県社会福祉協議会・静岡県社会福祉人材センター様からのご依頼を受け、御殿場西高校にて、「福祉のお仕事魅力発見セミナー・心理の仕事」の講師を務めましたが、その時も、同じように自分の仕事を改めて振り返りながらお話しさせていただきました。参加した高校生にカウンセラーのイメージを尋ねると、「困っている人にアドバイスする仕事」と答えてくれました。ですが、「相談者の気持ちを想像し寄り添う」「その気持ちを認める」ことがまず基本です。その時の状況だけでなく、成育歴や家庭環境が大きく影響している場合もあります。それらを頭に置いたうえで、「だからそう思ったんだね」と相談者の思いに寄り添うこと。そのうえで、相談者の力を見出してあげ、相談者が自分の力を信じ、自分で決め選び、自分でやっていける、と思えるような「エンパワーメント」という視点、あなただったら何ができそうかを一緒に考えていく姿勢が大切であることをお話ししました。さらには、心理の知識、理論、経験の裏付けも必要です。

高校生の持つ心理の仕事のイメージは、身近なスクールカウンセラーやドラマなどで見る病院で働く心理士くらいしかないようです。しかし実際には、乳幼児健診や療育センター、児相や警察などの司法領域、ハローワーク、企業対象の相談機関などの労働領域、市役所や県庁など、様々な分野で心理職が活躍しています。それだけ心理の視点が必要とされているということです。臨床心理士や公認心理師の資格を取るのはなかなか狭き門ではありますが、心理の仕事と福祉の仕事は重なる所が多くあります。そのほかすべての対人援助職で心理の知識や考え方を活かすことができます。困りごとに対する実際的なアドバイスを考えるタイプの方には、むしろ福祉職の方が向いているかもしれませんが、それでも基本は変わらないと思います。

「なごみ」メンバーさんの作品です

セミナー後の感想には「幅広い知識が必要と分かった」「やりがいがありそう」などあり、心理職についての関心の高さがうかがえました。これを機会に、心理職･福祉職を目指す若い人が増えることを期待しています。

また、Be サポートでは、静岡大学大学院の心理実習生の実践研修や、学生アルバイトもお受けしています。幅広い分野へのご協力もしていますし、心理職のみならず様々な対人援助職の方々を対象にした勉強会にも力を入れています。心理支援の知識や考え方を幅広く役立てていただき、こころに寄り添う支援が広がっていけばと願っています。心理の仕事に興味を持たれた方は、遠慮なくご相談ください。

イーパーツ　「リユース PC 寄贈プログラム」より パソコンをいただきました

認定 NPO 法人「イーパーツ」様より、PC を Be サポートへ寄贈していただきました。「イーパーツ」はリユース PC を寄贈する活動や、シンポジウムの開催等を通して非営利団体・ボランティア団体・高齢者や障害者グループを支援することを目的として活動をされています。その中でも「リユース PC 寄贈プログラム」は、企業が使用した PC を障がい者や専門家などの方の手できれいに再生したものを非営利組織へ寄贈するものです。

今回 Be サポートではリユースノート PC3 台を寄贈いただきました。これらの PC は心理検査の報告書をまとめたり、記録をつけたり、支援計画を立てたり等、様々な業務で活躍していきます。間接的ではありますが、イーパーツさんの思いも Be サポートの利用者さんへ還元していけるよう生かしていきたいと思います。

活　動　報　告

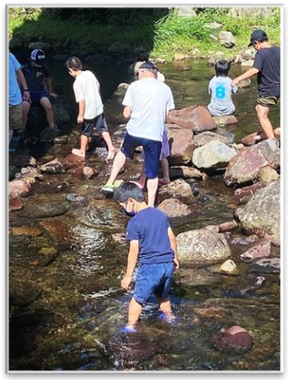
障害児・者総合サポートセンターみつばち「あんず」

夏の壁面制作で「おさるさん」を作りました。顔やお腹のパーツはハサミが上手になってきた子達は自分達でハサミで切りました。お顔を描くのがまだ自信のない子もいましたが。目をふたつ描いてみようなどと声を掛けながら進めると、お顔になっていきました。手足はどんな動きにしようかな？それぞれが好みの動きになるように手足と尻尾を付けていき、表情豊かなおさるさん達が元気いっぱい遊んでいる壁面になりました。

夏の水遊びは小さなプールでの遊びですが、容器で遊んだり、水風船をやったり、みんなでワイワイと盛り上がりました。濡れた体でのお着替えは大変ですが、自分で体を拭くことや濡れた衣類やタオルの始末をすることも含めて色々な練習になりました。

「なつのしりとりうた」というお歌の歌詞は、しりとりで夏らしいものが次々と出てきます。夏の歌として7月8月でペープサートを使いながら歌いました。子どもたちはリズムに合わせて体を揺らしながら、自然と声が出て、楽しく歌ってくれていました。

障害児・者総合サポートセンターみつばち「かりん」



夏休み中のかりんは、平日と違い、車を使って少し遠いところにある広い公園へ行くことがあります。そこで思い切り体を動かすことや、自然と触れ合う経験をしてもらうことが目的です。

今年は虫捕りやサワガニ捕りに熱中する子が多かったように思います。夏休みの初めの頃は、うまく捕まえられなかったり、そもそも触ることができなかったりという子もいました。でも、スタッフの後押しなども受けながら、挑戦を重ねる中で、「初めて捕まえた！」と笑顔で報告してくれる子がちらほらと出てくるようになりました。初めてできた瞬間というのは、子どもたちにとってもスタッフにとっても、とても嬉しい瞬間です。

虫捕りに限った話ではありませんが、できなかったことができるようになる経験というのは、子どもたちの成長にとって非常に大切なものです。自分はやればできるんだという感覚の元にもなります。ただ、できるようになるまでにとても時間のかかる子もいます。今年は残念ながら虫に逃げられっぱなしの子も多くいました。でも、また来年頑張ればいいのです。来年はできるようになるかもしれません。かりんでは、長い目で子どもたちの成長を見守っていきたいと考えています。

障害児総合サポートセンターみつばち伊豆「みかん」

猛暑の夏休みでしたが、みかんのお友だちは朝から元気に利用してくれました。

今年の夏休みから、新しく取り入れたことが2つあります。1つ目は、午前の勉強の時間に大きなデジタル表示のキッチンタイマーを皆が見えるところに掛けたことです。小学校の1時間の授業を意識して45分に設定してあります。昨年は、全体的に時間をあまり意識できませんでした。今年は自分たちでタイマーを確認する行動も見られ、時間内は学習に取り組めるようになったと感じています。

2つ目は、「どっちがカッコイイ？」というSSTのカードを用いたことです。トイレ・着替え・手洗い・食事の場面のカードを選び、視覚的に「カッコイイ」を確認してもらいました。特に、食事の直前にカードを示してからは、おしゃべ

（続き⇒）

活　動　報　告

伊豆圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「とっこ」

利用者さんが丹精込めて刺繍で仕上げてくれた「とっこ」の暖簾をくぐると、緑濃い景色が広がる季節です。

居場所「とっこ」では、新型コロナウィルス感染対策を続けながら、念願の調理を行うことができました。鯛焼きを作る器具を使って、利用者さんが好みの分量の餡子を入れるだけの簡単な作業でした。それでも、鯛焼きができるまでの時間、一緒に食事ができる環境になったら、他に何を作りたいかレシピを探したり、以前「とっこ」で作った手打ちうどんやピザなど振り返ったり、話しに花が咲きました。

また、約半年ぶりの野外活動として「伊豆の国大河ドラマ館」を訪問しました。NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の展示物や衣装を見たり、映像を鑑賞したりして、遠足で来ていた小学生に交じって見聞を広げることができました。

普段の活動は、利用者さんの体調や都合、利用時間に合わせて、フラワーアレンジメント、ステンドグラス風アート、フェルトワークやビーズ細工などに取り組んできました。皆さんの完成度の高さと個性あふれる作品に、スタッフも励まされています。また、ボードゲームやカードゲーム、利用者さんが提案してくれた言葉ゲームなどを通じて、穏やかな時間が流れています。

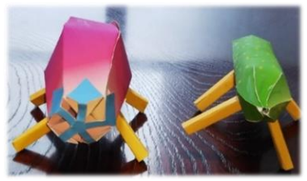
これからも利用者さんの希望を聞きながら、少しづつ利用者さんの目標に寄り添える居場所活動を模索していきます。秋を感じられる野外活動やパソコン教室を予定しています。

東部圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「なごみ」

利用者さんが5月を過ぎてから徐々に増えてきました。8月までの利用登録者は6名で、全て男性です。年齢は10代後半から40代後半の方々です。スタッフ2名と全員が集まると、メインに使っている和室がぎゅうぎゅう詰めになってしまいますが、2～3か月毎の方や、半年ぶりの利用の方もいるので、何とか一部屋で活動を行っています。

さて、活動風景の紹介です。普段は人生ゲームや UNO をやることが多いですが、今回は七夕飾り作りや短冊にそれぞれ願い事を書いて準備をし、7月7日にみんなで笹に飾りつけをしました。7月7日は「そうめんの日」だそうで、所説ありますが、織姫の仕事である織物の糸や天の川に見立てて食するようになったそうです。感染予防対策をしながら、久しぶりに調理を行いました。みんなで手分けをして食器を洗ったり、お湯を沸かして麺を茹でたり、盛り付けをして、楽しく食べました。そうめん一袋 300g を5人でぺろりと平らげてしまいました。いつも午前中だけで帰ってしまう利用者さんも、この日は帰らずに調理をし、みんなと一緒に食べて帰りました。充実した1日でしたが、また感染者数が増えてきたので、残念ながら調理はしばらくお休みです。

8月は、お盆に向けての精霊馬をペーパークラフトで作りました。紙を切ったりのりで張り合わせながら、「馬はこっちの世界に早く戻ってきてもらい、い、牛はゆっくりあの世に帰ってもらうという意味がある」と利用者さんが説明をしてくれました。



居場所「なごみ」に興味のある方は、ぜひ見学にいらしてください。

（⇒続き）

りをしすぎず、落ち着いて食事を摂ることができていました。　放課後では時間に余裕がなく、丁寧にプログラムを実施することができないのが現状です。しかし、長期休みは、子どもたちとじっくり関り、生活技術や小集団でのルールなどを練習できる貴重な時間になっていると思います。

午後は、みかん恒例の水遊びを満喫しました。プールや水鉄砲やバケツでの水掛っこ、ホースの水を利用した縄跳びなど、スタッフも子どもたちも大いに楽しみました。そして滑り台を利用したウォータースライダー、ブランコを利用したミストブランコは、子どもたちのお気に入りです。